



イベント

抗日戦争勝利の日、勝利のラッパが鳴り響く

9月3日は中国人民抗日戦争勝利記念日、そして世界反ファシズム戦争勝利記念日でもある。午前、当館の勝利広場では、勝利を象徴する巨大な「V」字の隊列が現れた。南京の青少年代表、南京大虐殺生存者の遺族代表、コミュニティ代表、紫金草ボランティア代表、記念館職員など約200人が集まり、「中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利79周年記念式典」に参加した。歴史を忘れず、烈士を偲び、平和を大切に、未来を切り開きたいと願っている。



中秋の節に生存者お見舞い

中秋の節の前、当館および戦争被害者援助協会（南京侵華日軍受害者援助協会）のスタッフが南京大虐殺の生存者を慰問し、慰問金やプレゼントを差し上げ、祝福を送った。



（写真中）9月14日は生存者の熊淑蘭おばあちゃんの93歳の誕生日。誕生日を祝うために花やケーキを差し上げた。

（写真左上）91歳の生存者の伍秀英おばあちゃんは、4世代の大家族を持ち、幸せな晩年を暮らしている。

（写真右下）92歳の王子華おじいちゃんは足がやや不自由になるのも、普段は京劇を聴くや新聞を読むのが好きで、国の発展にずっと関心を持っている。

（写真右上）96歳の艾義英おばあちゃんは「今の幸せな生活は、昔では考えられなかった。記念館や援助協会はいつも私のことを心配してくれて、息子たちも親孝行で、よく見舞いに来てくれる」と語った。

（写真左下）92歳の陳徳寿おじいちゃんは目がよく見えず、耳も少し遠くなっているが、息子や娘が常に側に付き添っている。陳徳寿おじいちゃんは、当館のお見舞いで心を温められると感じ、感謝の気持ちを述べた。

受け継ぐ

歴史を忘れるな、9月18日を忘れるな

今年の9月18日は九一八事件勃発から93年目にあたる。午前中、当館の公祭広場で九一八事件勃発93周年イベントを行った。南京大虐殺生存者の遺族代表、青少年代表、見学者代表、コミュニティ代表、記念館職員代表、紫金草ボランティアなど500人が参加した。ボランティア代表が抗戦の詩「復活の地」を朗読した。



式典終了後、南京大虐殺の歴史記憶を受け継いだ夏淑琴さんの孫娘夏媛さんが、南京大虐殺史実展にある夏淑琴さんの家族写真の前で、1937年におばあさん家族9人のうち7人が日本軍に虐殺された不幸な歴史を子供たちに伝えた。



心のケア

国際平和デーに国内外の青少年が記念館で平和を願って歌った

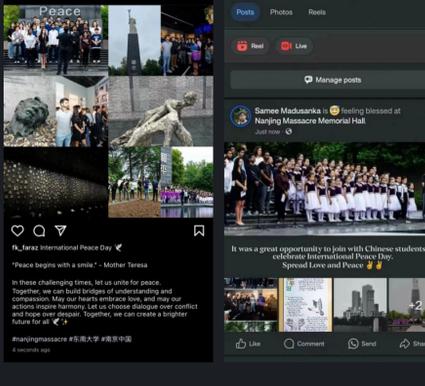
国際平和デーに、当館は平和公園で「平和を歌い、未来を蒔く」イベントを開催した。11カ国から130人以上の国内外の青年たちが集まり、平和の歌を歌い、紫金草の種を蒔き、歴史を銘記しながら平和について語り合った。



「愛が火を消し、平和は雨とともにやってくる」の歌詞を歌った海外の若者たちの歌声は、ストレートに心に響いた。バングラデシュからの留学生レマさんは、「私がこの歌の背景にあるストーリーにとっても感動され、メロディーと歌詞の一つ一つが深く私の心に響く」と語った。



留学生たちは、それぞれのソーシャルメディアで気持ちを分かち合っている。「争いよりも対話を選ぼう。希望は絶望に打ち勝つ。共に手を取り合い、明るい未来を作ろう」「これは中国の学生と一緒に国際平和デーを祝い、愛と平和を広める絶好の機会だ」と語った。



烈士記念日に英雄の手紙を読み上げる

9月30日の烈士記念日に、記念館は勝利広場で「烈士を偲び、英雄に敬意を払う」イベントを開催した。亡くなった南京大虐殺の生存者葛道栄さんの次男で、「南京大虐殺歴史記憶継承者」にあたる葛鳳瑾さんは、1937年の南京防衛戦で戦死した易安華さんから妻子に宛てた手紙を読み上げた。葛さんは「南京大虐殺の歴史記憶を受け継ぐ者として、私は次の世代に、常に烈士を忘れず、歴史を忘れず、国づくりに全力を尽くすよう伝える責任がある」と語った。

